

## 事項一二 対中国借款善後策ニ関スル件

九一 十月十日

内田芳沢臨時代理公使発内田外務大臣  
宛電報第一三六五号(乙)

西原氏閥与ノ对中国借款ハ其性格ニ鑑ミ曹財

政總長失脚ノ場合之ガ善後措置至難ナルベキ

旨予メ稟申ノ件

別 電

同日在中國芳沢臨時代理公使発内田外務大臣

宛電報第一三六五号(乙)

西原氏閥与ノ借款列挙ノ件

附 記

十月十九日関係各大臣會議協定

二 十月二十六日岡部書記官神野大蔵次官会談  
日本側銀行ニ預金中ノ満蒙及山東新鐵道借款  
前貸金引出延期方ニ関スル件

第一三六五号

(十月十二日接受)

一昨年来西原ヲ主動者トシテ曹汝霖及我特殊三銀行トノ間ニ訂立セラレタル借款ハ別電第一三六五号(乙)列記ノ通ナルガ右等借款ガ常ニ何レモ政治借款ノ色彩ヲ帶ブルモノトシテ外間ノ物議ヲ招キタルハ今更絮説フ要セザルノミナラズ今後尚種々論議ノ題目ニ供セラル可キモ亦想察ニ難力

洋派ノ極メテ一小部分ニ局限セラレ一旦同人ノ失脚ヲ見シカ此等借款ノ前途モ懸念ニ値スル点多々有之次第ナル処今ヤ政局ニ一変転ヲ見ントシ曹ガ財政総長ノ職ヲ去ルベキハ往電第一三四〇号既報ノ通り殆ド疑ヲ容レザルヤニ思料セラル、ノミナラズ其果シテ交通総長ノ任ニ留ルベキヤ否ヤモ未ダ確定ノ事實トモ認メ難ク旁々其何レニセヨ曹ガ果シテ能ク現在ノ勢力ヲ維持シ得ベキヤ否ヤハ頗ル疑問トセザルベカラザル状態ニ有之從テ前記諸借款ノ履行若ハ修補ニ關シ仮令當館ヲシテ専ラ其衝ニ当ラシメントスルモ曹ニシテ財政総長ノ任ニ在ラザル以上同部ニ對シテ我方主張迄モ円滑ニ之ヲ遂行スルコト頗ル困難ナルベク左リト外交部ニ對シ正式交渉ヲ試ムルモ實際ニ於テ無關係ナリシ同部ノ事トテ是亦容易ニ説明カザルコト明白ト信ズ然ルニ是等諸借款ノ善後方ニ付テハ目下或ハ政府ニ於テ御考量中ト拝察セラル、処本件ニ關スル実情右ノ通ナルガ故仮令善後処分ヲ當館ニ委付セラル、モ乍遺憾到底円満ナル解決ヲ得難キハ茲ニ改メテ本官ヨリ申上グル迄モ無ク右ハ夙ニ御賢察ヲ得居ル事ト思料セラル、モ対支外交全般ニ亘レル御考量ノ

具申ス

(別 電)

十月十日在中國芳沢臨時代理公使発内田外務大臣宛電報

西原氏ガ主動者トシテ閥与セル借款列挙ノ件

第一三六五号(乙) 別電

(一) 交通銀行第一次借款(大正六年一月)

(二) 同第二次借款(大正六年九月)

(三) 電信借款(大正七年四月)

(四) 吉会鐵道借款予備契約(七年六月)

右吉会線予備契約ニ閥シ最モ注意スヘキ二点アリ(一)間島協約ニ依レハ吉会鐵道ニ閥スル一切ノ弁法ハ吉長鐵道ト一律ナルヘキノ明文アルニ拘ラス本予備契約ニ依レハ津浦鐵道契約ノ規定ニ依ルヘキコトトナリ居レルコト(二)本予備契約ハ一千万円前資金ヲ協定シ右前貸ハ本契約ニ基ク資金ヨリ優先ニ償還セラルヘキコトト成リ居レル結果右資金ハ實際ノ建設費ヲヨリ右前貸支ケ多額ニ見積ラサルヘカラサルコトトナルヘク若シ其間支那側當局者ニ運動アルトキハ此点ニ閥シ故障出ヅルコトナキヲ保シ難キコト

参考資料トモ相成ルベクト存ジ特ニ委曲ノ事情ヲ添ヘ茲ニ

一二 対中国借款善後策ニ閥スル件 九一

(五) 吉黑森林金鉱借款契約(七年八月)

九三五

## 一一一 対中国借款善後策ニ関スル件 九一

九三六

右ニ閑シ露国公使ヨリ申出ノ次第アリタルハ往電第一〇

四二号電票ノ通ナリ

(六)山東延長線及満蒙線布設借款(七年九月)

借款契約ニ基ク債権者ノ利益確保ノ為運輸並会計監督者ヲ招聘セシムルノ問題ハ今後解決ヲ要スヘシ

(七)製鐵借款(七年九月)

本借款ハ名実共ニ純然タル政治借款ニシテ四國團ニ於テ抗議ノ理由アリ将来頗ル國際的物議ヲ醸スニ至ルヘキハ極メテ明白ナリ

(八)參戰借款(七年九月)

本借款ハ名実共ニ純然タル政治借款ニシテ四國團ニ於テ抗議ノ理由アリ将来頗ル國際的物議ヲ醸スニ至ルヘキハ極メテ明白ナリ

(九)對記一

十月十九日關係各大臣<sup>(註)</sup>會議協定

对中国借款ノ取扱及西原關係借款ノ整理ニ關スル件

對支借款跡始末ニ關スル方針要綱

(一)爾今支那ニ對支借款ニ付テハ列國ノ疑惑ヲ招キ支那人民ノ反感ヲ挑発シ延イテ大局上帝國ノ支那ニ對スル立場ヲ不良ナランメ若クハ支那政界一部ノ勢力ヲ援助スルニ止マリ其勢力ノ消長ハ直チニ其借款ノ効力前途ニ多大ノ影響ヲ与フルカ如キモノハ一切之ヲ避ケルコト

スルト共ニ本借款ノ活用ヲ計ルコト

(二)吉会鉄道借款

本鉄道借款本契約案ニ付テハ已ニ外務大藏両省間ニ打合ヲ了シ居レルニ付右ニヨリ關係者ヲシテ速ニ其成立ヲ図ラシムルコト

(三)滿蒙四鉄道及山東両鉄道借款

是等諸鉄道及前記吉会鉄道ハ何レモ仮契約締結ト同時ニ巨額ノ前貸金ヲ交付シ居レル次第ニ本契約締結ノ措置ヲ講スルニアラサレハ其成立困難トナル虞アリサレハ此等諸鉄道ハ何レモ適當ノ契約案作成ノ上關係者ヲシテ急速本契約締結ノ途ヲ講セシムルコト必要ナリ尚此等諸鉄道全部此際敷設ヲ圖ルコトハ我金融ノ關係上困難ナルヘキニ付右ノ中(一)開原海龍線及山東両鉄道ハ本契約調印ノ上ハ可成速ニ工事ニ着手シ其竣成ヲ圖ルヘシ尤モ山東鉄道ハ兩線共同時ニ敷設スルコト困難ナルニ於テハ先ツ濟南ヨリ西方ニ向フ延長線ニシテ我希望通リノ線路ヲ選フヲ得ハ本線ヲ敷設スルコト然ルヘク若シ右支那側トノ間ニ容易ニ交渉纏マル見込ナキニ於テハ濟南ヲ起點トルスル延長線ノ終点ヲ順徳ニ選フハ必スシモ有利ナラサル

(一)其借款ノ性質如何ヲ問ハス苟クモ現下ノ支那南北ノ争乱ヲ助長スルノ用ニ供セラルカ如キ借款及資金ノ交付ハ當分ノ間其中央政府ニ對スルト地方官憲ニ對スルトヲ問ハス原則トシテハ一切之ヲ差控ヘ以テ南北妥協促進ニ資スルコト(右ノ方針ハ好機會ニ於テ之ヲ非公式ニ内外ニ声明スルコト帝国ノ公正ナル立場ヲ明カニスルニ得策ナルヘシ)  
(二)又從テ苟モ政治借款ノ性質ヲ有スルモノハ實業借款ノ仮面ノ下ニ四國團體規約ヲ潛ルカ如キコトヲ避ケ誠実ニ四國團共同ノ事業トスルコト  
(三)次ニ前記ノ方針ニヨリ所謂西原關係借款ハ左ノ通り整理スルコト

(一)吉黑森林金鉱借款

露國側抗議ノ次第ニモ顧ミ本件借款条項中日露協約ノ精神及条項ニ鑒ミ当ヲ得サルモノハ追テ之力改訂ヲ行フニ努ムヘキモ差ダリ露國ノ利益ヲ損傷スルノ虞アル条項ニ付テハ我關係者ヲシテ一切其実行ヲ見合ハサシムヘキ旨露國側ニ言明スルト共ニ進テ本借款ニ基ク事業ヲ日露協同ニヨリ經營スルカ如キ組織ニ改メ以テ露國關係ヲ解決

カ如ク認メラルニ付本線ハ別ニ支那側ト商議スルコトトシ此際ハ高密徐州線ノ急設ヲ圖ルコト得策ナルヤ否ヤヲ決スルノ要アリ何レニスルモ支那ノ鉄鉱ニ關スル排外閉鎖主張ヲ我ヨリ進テ助長スルカ如キ措置ハ之ヲ避ケナルヘカラス支那ノ鉄鉱ニ關スル排外法規即チ鉄鉱暫行辦法ノ類ノ撤廃ハ今回ノ製鐵所借款案ノ關係モアリ正面ヨリ之ヲ迫ルモ容易ニ説明ク見込ナシ從テ製鐵所借款案ノ内容ニ適當ノ変更ヲ加ヘ右借款ヲ供給スルト代償のニ事實上右排外法規ノ撤廃ヲ實行セシムルカ又或ハ例ヘハ農商部年來ノ宿望タル拓殖銀行ノ如キモノノ新設ニ要スル資金ヲ我ヨリ供給シ以テ農商部側ノ立場ヲ鞏固ナラシムルカ如キ方法ヲ講セハ同部ヲシテ事實鉄鉱暫行辦法ヲ撤廃セシムルコトヲ得サルニ非ザルヘシ

(四)其他金券条例ノ実施ハ斷然之ヲ中止シ幣制借款ノ常道

## 二二 対中国借款善後策ニ関スル件 九一一

九三八

ニ返リ之ヲ措置スルコト可然又團匪事件賠償金拋棄問題  
ハ單純ニ經濟的施設ト關聯セシムルコトナク支那国民感  
情ノ融和日支ノ精神的接触ヲ図ル文化政策ノ基礎トスル

コト必要ニシテ若シ夫レ鐵道借款團組織ノ件ニ至テハ暫  
ク之ヲ見合ハスルコト然ルヘシ

四) 将来特殊銀行会社ニ於テ外務大藏両省ノ承知ナクシテハ

支那トノ間ニ借款交渉ヲ行ハザルコトヲ要ス(目下問題ト

ナリ居レル滙業銀行關係ノ福建省四百万円借款モ右ノ方針

ニヨリ至急詮議ヲ加フルコト) 尚從來ノ西原關係借款ニ閑

聯シ今後可執諸般ノ措置ニ付テモ關係者ヨリ外務大藏両省

ト予メ打合ヲナシムルヲ要スルコト勿論ナリ

五) 将來ニ於ケル対支借款方針殊ニ米國政府ノ提案ニ係ル新

借款團組織案ニ付テハ外交財政ノ大局上ヨリ慎重ニ考究ス

ルコトヲ要ス

(欄外註記)

一、「前貸金未渡シ分アラバ之ヲ利用シ本契約ヲ速成セシム

ル方法ナキヤ」

二、「本件ニ付テハ閣議決定ノ次第モアリ滿鉄ノ關係考量ヲ

要ス」

三、「本件ノ辦法左ノ如ク取計ヒテハ如何

(一) 契約未締結ニ付当分其儘トナシ置クコト  
(二) 支那鐵山ニ從來關係ノ我資本家ニ相当ノ助力ヲ与へ迅速  
解决ヲ計ラシムルコト

(三) 対外鐵鎊閉鎖主義ヲ撤去セシムルコト  
(四) 国立製鐵所案ハ適當ノ時機ニ至リ對外關係ナキ鐵山ヲ開  
発シテ事業ヲ經營スル様漸次ニ歩ヲ進ムルコト  
四、「鳳凰山ヲ國立製鐵所所属トスルノ件ニ關スル九月十七  
日ノ閣議ハ再考ニ附スルコトヲ要ス」

五、「金券条例問題ハ條例其者ノ存廢ハ兎ニ角日本カ本条例  
ノ裏面ニ隱レテ單獨ニ幣制借款ニ應スルカ如キ意圖ヲ有セ  
サル旨ヲ声明スルノ必要アリ  
團匪賠金問題ハ南北統一ヲ待テ支那全般ノ人民ニ惠沢ヲ  
与フル趣旨ニテ專ラ道義博愛ノ主義ニヨル施設ヲ為スヘシ  
又之ハ適當ノ機會ニ右ノ趣ヲ公表シ然ルヘシ」

註 右會議ハ十月十九日外務大臣官邸ニ於テ開催セラレタリ  
日本側銀行ニ預金中ノ滿蒙及山東新鐵道借款前貸金引出延期  
方ニ關スル件

十月二十六日岡部書記官小村課長ノ代理トシテ神野大藏次  
官ヲ往訪シ十月十九日ノ會議ニ於テ協議セラレタル滿蒙及  
山東ニ於ケル新鐵道借款前貸金ノ件ニ關シ其後大藏省ノ詮  
議如何相成タルヤ(會議錄五、ノ(三)参照) 目下支那南北妥

(附  
記二)

十月二十六日岡部書記官小村課長ノ代理トシテ神野大藏次  
官ヲ往訪シ十月十九日ノ會議ニ於テ協議セラレタル滿蒙及  
山東ニ於ケル新鐵道借款前貸金ノ件ニ關シ其後大藏省ノ詮  
議如何相成タルヤ(會議錄五、ノ(三)参照) 目下支那南北妥

規定ナク今更監督員ヲ採用セシムルコトモ不可能ナルヘケ  
レハ事実監督ヲナスコト能ハス第三点引出ノ場合ニ一々同  
出ヲナシムルハ別ニ困難ニハアラサレトモ之トテ引出ヲ  
阻止シ得サル以上單ニ一片ノ報告ニ止リ何等ノ効果ナカル  
ヘシ(現在ニテハ引出ノ後ニ於テ一々報告セシムルコト、  
ナリ居レリ) 尚現ニ支那政府ハ支那ニ在ル日本ノ銀行又ハ  
匯業銀行ヨリ逆為替ヲ以テ引出スコトアリ斯ノ如キ場合ニ  
ハ尚更如何トモ施スヘキ策ナキヤニ思考セラル尤モ該前貸  
金ノ引出ハ為替ニヨル次第ナルヲ以テ四千万円ノ額ヲ一ヶ  
月ヤ二ヶ月ニテ引出スコトハ不可能ナルヘシ尚以上諸点ニ  
關シテハ更ニ考慮スヘシ云々ト答ヘラレタリ

(尚岡部ヨリ思付トシテ該預金引出ノ上ハ結局曹一派ノ手

中ニ帰スヘク從テ妥協ニ不利ナル結果ヲ來スニ付徐總統一  
派ノ者等ハ之ヲ欲セサルヘクサスレハ徐側ニ申入レ該預金  
ノ引出ヲ制限スルノ措置ヲ講セシムルコト一策ナルヘキヤ  
ニ思考セラル、旨ヲ述ヘタルニ次官ハソレ或ハ可ナルヘキ

付之カ引出ヲ今ニ至リテ阻止スルハ困難ナルヘク塩税剩餘  
保留トハ同一ニ論スヘカラス又用途ノ監督ト謂フモ引出ノ  
道ノ為ニ使用スヘキ筈ナレトモ彼等ハ素ヨリ鐵道布設ヲ希望  
セルニハアラスシテ前貸金四千万円ヲ握ルヲ目的トシタルモノナレハ該前貸金カ他ノ目的ニ流用セラル、ハ勿論ナリ參戰借款ノ如キハ陸軍ヨリ吏員ヲ派シテ監督スルコト、  
ナリ居レルカ故ニ用途モ明確ナレトモ鐵道借款ニハ斯カル

(欄外註記)

「十月廿六日内田大臣ヨリ來訪ノ美濃部鮮銀頭取ニ對シ引出  
ニ応スル際ニハ先以テ外務省ニ同出ツヘキ旨内達セラレタリ

一一 対中國借款善後策ニ關スル件 九一一

九三九

(小村印)

九一二 十月二十三日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

中国財政ヲ列國ノ監理ニ委スベシトノ新聞寄  
書報告及西原借款ノ善後措置ニ關シ具申ノ件

機密第四一一号 大正七年十月二十三日 (十月二十八日接受)

在支那

臨時代理公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

支那財政ヲ列國共同監理ニ委付スヘシトノ説近來一部外人間ニ唱道セラレ居ルヤニ被見受候處本月十八日ノ北京「リーダー」ハ最近上海「ミラード、レヴュー」ニ掲載セラレタル本問題ニ関スル別添切抜ノ如キ長文ノ寄書ヲ転載致居候右ハ米国留学出身董頤光ト称スル者ノ筆ニ成リ排日雑誌タル前記「ミラード、レヴュー」ニ寄稿セラレタルモノニシテ其論旨ノ要綱ヲ摘錄セハ今ヤ支那ハ殆ト破産ノ悲運ニ向ヒツ、アリテ此際速カニ外国人ノ援助ヲ俟ツニ非サレハ竟ニハ狂瀾ヲ既倒ニ廻スニ由無キニ至ルヘキ旨喝破シ

ハ畢竟輓近ニ於ケル対日借款其重因ヲ為スモノナリトハ一

部支那人竝ニ多數外国人ノ提唱セル所ニシテ支那財政ヲ挙ケテ國際的監理ニ委スヘシトノ議論ヲ生セシムルニ至リタルモ亦要スルニ上記対日借款ニ依リ刺激セラレタル結果ト推セラルルノミナラス右國際監理論ハ今ヤ漸ク外人間ニ其勢ヲ得ツ、アル哉ニ被認多少注目ヲ要スルモノアルト同時

ニ此時ニ方リ最近急遽予備契約ノ訂結ヲ了シタル各借款ノ善後处分如何ノ問題ハ頗ル考慮ヲ要スルモノ有之右ニ就テ

ハ已ニ往電第一三六五号及往電第一四二一号末段ヲ以テ及内申置候次第モ有之其後幸ニ御考量ヲ得居候儀ト存候処前頭ノ通日下物議益々喧囂ヲ來セル折柄ニ付速カニ前記善後処分ニ對スル我方ノ態度ヲ何レカニ確定セラルコト極メテ必要ノ儀ト思料致候尚政府ノ御詮議ニシテ若シ此際総テ契約規定通り前貸金其他金額ノ授受ヲ了シ契約履行ノ歩進メラルコトニ決定セラル節ハ右金額ノ費途等ニ関シ他ノ政費例ヘハ討南費用等ニ振向ケサル様特ニ厳密ナル条件ヲ付スルカ其他監査ノ方法ヲ講セラレ以テ世上ノ懷疑ヲ招キ世論ヲシテ愈々其高調ニ達セシムルカ如キコト無之様篤ト御考量相煩度右報告旁々及具申候也

註 別添切抜ヲ省略ス

九一三 十月二十四日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

## 西原借款善後処分ニ關スル我方方針ハ速ニ確

定ノ必要アル旨稟申ノ件

機密第四一四号 大正七年十月二十四日

在支那

臨時代理公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

最近訂結セラレタル所謂西原借款ニ關聯シ外国人側ニ於ケル物議益々囂々タル折柄右等各借款ノ善後処分ニ對スル我方ノ態度如何ハ此際速カニ確定セラルコト極メテ必要ト思料セラル次第ニ關シ本月二十三日付機密第四一一号末段ヲ以テ及具申置候次第有之候処右ニ就テハ文意尚尽サ、ル處モ有之旁々更ニ卑見ノ趣旨開陳仕度即チ右拙信具申ノ趣旨ハ所謂西原借款ノ内容ニ瑕疵不尠且國際關係上頗ル好マシカラサルモノアルハ迭次具報ノ通ニシテ爰ニ改メテ贅述ノ要モ無之候得共諷テ一考スルトキハ寧ロ國際的嫉妬ノ

一一一 対中国借款善後策ニ関スル件 九一四

九四二

情ニ狂奔シツ、アル外国人側ノ悪罵ニ辟易シテ右等各借款  
殊ニ前渡金ノ少クトモ一部ハ已ニ交付ヲ了シタルモノモア  
ル山東延長線及満蒙線等ノ利權ノ前途ヲ悲觀セシムルカ如  
キ措置ニ出ツルハ必スシモ國家百年ノ長計上策ノ得タルモ  
ノニ非ストモ思料セラレ旁々政府ニ於テモ右ノ見地ニ基キ  
此際予定通り金額ノ授受其他契約履行ノ歩ヲ進メラルヘキ  
ヤ将又一二國際政局ノ大局ヨリ見テ隱密ナル交渉ニ拠テ獲  
得シタル此種利權ノ将来ニ必スシモ重キヲ措カス却テ列國  
ノ同情ヲ離反セシムルコト不得策ナリトノ見地ニ基キ上記  
借款ノ前貸其他契約規定ノ実行ヲ姑ク見合スコトトセラル  
ヘキヤ其何レニセヨ可成速力ニ我方ノ態度ヲ確定セラル  
コト頗ル急務ト信スル次第モ有之候間右様御諒承ノ上前信  
縷陳ノ次第ト併セ御酌量ノ上可然御詮議相仰度前信補遺旁  
々此段申進候也

日本ノ对中国借款ヲ非難スル北京通信ニ閲スル件  
電報特第一七三号

拝啓

對支借款ニ閲シ倫敦駐在森財務官ヨリ別紙写ノ通リ來電有  
之候間為御参考御送付申上候也

大正七年十月廿六日

内田外務大臣殿

高橋大藏大臣

(附屬書)

十月二十一日在倫敦森財務官発高橋大藏大臣宛電報寫  
日本ノ对中国借款ヲ非難スル北京通信ニ閲スル件

倫敦發 十月二十二日

本行著 大正七年十月廿五日午前十一時

大藏大臣

森財務官

特第一七三号

本邦対支借款ニ閲シ貴電特第一〇六号及特第一二七号ノ趣  
旨ニ基キ当地有力ナル機関ニ本邦政府ノ本旨ヲ弁明シ其他  
誤解ヲ正スニ一応ノ手段ヲ取レリ然ルニ八月廿九日「ルー  
ター」北京通信ハ陸軍部泰平組合間二千万円借款成立前貸  
タ一北京通信ハ陸軍部泰平組合間二千万円借款成立前貸

金ハ軍事上ノ目的ニ使用セラルヘキ事並ニ日本ノ別働財政  
代表者ノ起案ニテ支那重要物産ノ輸出入ヲ独占スベキ会社  
ヲ創立シ資金ハ全部日本ヨリ供給セラレタリト報シ九月十  
九日「タイムス」北京通信ハ日本銀行家ト支那政府トノ間  
ニ山東省及内蒙古鐵道借款(六百万円前貸)軍事借款四百  
万円政治借款二百万円(煙草税担保)近日成立スペキ事ヲ  
伝ヘ本日 The Times ハ同社十月十五日北京通信トシテ支  
那金券發行ニ対シ日本ハ大借款ヲ申込メリ之レ善後借款協  
定ニ反ス金券發行ハ支那幣制ヲ一層混乱ニ陥ル、モノニン  
テ而モ東京ヲ以テ一切金取引ノ中心トシ日本ニ対シ商業上  
ノ特惠的地位ヲ与フルモノナリ其他日本ハ軍閥擁護ノタメ  
約二千万円ノ借款ヲ成立セシメ以テ南北ノ融和ヲ妨げ而モ  
北京ニ於ケル日本ノ両面外交ノ手段ニ依リ秘密ノ裡ニ進行  
セリ云々又近時北方軍閥ノ没落ヲ救助スル為鉄道借款ノ前  
貸ヲ急キツ、アリ是等鐵道ハ從來ノ経験ニ徴スレバ政治上  
並ニ特惠的商業ノ目的ノ為ニ使用セラレ日本ノ勢力範囲拡  
張ノ用ニ供セラレ門戸開放ヲ有名無実ナラシムベシト記載  
セリ惟アニ是等通信員ハ或ハ日本ガ現戰争ヲ利用シ支那ニ  
於ケル利權獲得ヲ急クモノトシ或ハ各種名目ノ借款ハ事實

註 右ハ日本銀行經由ノ電報ナリ

九一五 十月二十八日 在北京小林財務官ヨリ  
高橋大藏大臣宛(電報)

对中国借款其他財政經濟問題ニ閲シ公使館ト  
財務官トノ関係ニ付意見具申及金券条例ニ對  
スル三国公使抗議ノ經緯報告ノ件

対支借款方針ノ件

大正七年十月 二八日北京発  
三〇日大藏省著電

高橋大藏大臣ヘ

小林財務官ヨリ

第一五〇号

御訓電第九七号(借款方針及金券抗議ノ件)及第九八号  
(江西省借款ノ件)ヲ拝承シタレハ今後ハ此方針ニ依リ処

(一記註外欄) 理ニ努ムヘキモ此機會ニ於テ申上置度コトアリ左ニ之ヲ開陳ス

一、対支借款ニ関シ公使館ト財務官トノ関係ハ難問ノ一ナルモ元来借款ハ一ノ取引ニシテ支那政府ニ対スル場合物件ノ売買ト等シク相互私的ノ経済行為ノミ、外交ノ本義ノ如ク公力關係ノモノニ非ス対手ハ外交部ナラスシテ他ノ主管各部ナルニ徵スルモ其然ルヲ知リ得ヘシ故ニ我外交ノ当局トシテ常ニ外交部トノミ交渉スル公使館ハ原則トシテ此取引的契約ノ交渉中ニ立入り当事者何レカヲ代理スル如キ位置ニ立ツヘキモノニ非斯ノ如キハ外交ノ權威ト借款ノ懸引トヲ交互ニ利用スル如ク恐レラル嫌アリ之ニ反シテ財務官ハ此場合ニ處スル便宜機関ナリト思惟ス公使館ハ借款ノ交渉カ当事者及財務官ノ手ニヨリ一定ノ形態ニ進ミタル時ニ於テ成立調印前之カ監督の公力ヲ以テ承認ヲ与フト云フヲ適當トス但シ諸外国ト共同スル借款ハ(四國借款ノ如キ)國際關係トナルヲ以テ外交ト見做シ交渉ノ始メヨリ公使館ニ於テ之ヲ取扱ヒ交渉中財務官ノ財政的意見ヲ問フト云フヲ以テ可ナリトスヘシ

(二記註外欄) 一、公使館ト財務官トノ間ニハ独リ借款ニ関スルノミナラス広ク財政經濟問題ノ全部ニ関シ兩者何レノ一方ニ事件現ル、モ必ス其決定前他ノ一方ニ通告シ互ニ意見ヲ問フ

コトヲ協定シ置度小官ハ從来凡テ此協定ヲ実行シ來リタルモ公使館ニ在リテハ殆ント決定前ニ通告シ來レルコトナク決定後ニ於テスラ當方ヨリ問合セザル迄ハ通告セサリシモノ少カラズ現ニ金券条例抗議ニ関スル公使館意見ノ如キ決定ノ上既ニ外務省ニ上申セルニ拘ラス小官ハ毫モ与リ知ル所ナカリキ事後ニ報告ヲ聽取スル如キハ意見ヲ開陳スル機會ト何等ノ関係ナシ依リテ今後ハ決定前相互通告ノ協定ヲ本省ト外務省トノ間ニ確定シ本省ヨリ外務省ニ交渉セラレ支那ニ關スル財政經濟問題ハ今後總テ受理ノ始ヨリ公使館ハ財務官ニ通告シ必ス其ノ意見ヲ問フコトニ公使館ヘ訓達方有之様取計ラハレン事ヲ望ム

三、江西省借款ハ先ツ債権者ヲ定メ一定ノ形体ヲ具ヘタル後成立前ニ公使館ニ通告シ其ノ承認ヲ求ムルノ意ナリシナリ該借款ハ(二字不明)但シ今後支那ノ整理及改革ニ関シテハ地方借款ヲ必要トスヘキコト必然ナルヲ以テ此点ハ予メ御承知ヲ乞フ

#### 四、金券条例抗議問題ニ関シテハ先ニ四國公使團ハ幣制借款優先權ニ関係ナキモノトシテ満足ノ意ヲ回答シ問題ハ

茲ニ段落ヲ告ケタル如キ感アリシニ米國公使帰任後形勢ニ変化ヲ生シ三国公使ニ支那政府當局者カ為セル説話ヲ問題ト為シ其実米國公使ト梁士詒トノ結托ニヨリテ曹汝霖排斥ノ目的トセラレタル煽動ニ動カサレ突如支那政府ニ対シテ金券条例絶対反対ノ抗議ヲ為スニ至リ如此絶対ノ反対意見アリタリトセハ之等公使團ハ何故ニ前ノ如キ回答ヲ為シタル際此点ヲ明告シ置カサリシヤ頗ル怪シマザルヲ得ザルノミナラズ四國銀行團代表者カ支那幣制計画ニ対スル批評ニ於テ金券發行計画ニ対シテハ幣制節略記載ノ内容貧弱ナル為十分ニ意見ヲ開陳スルヲ得ストシ又ハ銀券及金券ノ並存ニ関シ別段ノ異議ヲ唱ヘスシテ批評セル等ニ対照スレハ先以テ怪訝ニ堪ヘサルナリ這ハ兎ニ角モ最早英仏露ノ三國政府ハ銀行團代表者ノ意見如何ヲ問ハス金券条例ニ絶対ノ反対ヲ表明シ何方トモ協議

ノ余地ナキヲ示セルモノナリ然ルニ獨リ日本政府ノ抗議ハ然ラス第九七号ノ御訓電ニ於テハ大体ノ趣意三國公使ト一致スト示サレタルモ尚銀行團代表者等ノ審議ヲ待ツ

## (欄外註記)

一、「列國ノ支那ニ於ケル角逐ハ領土獲得主義ヨリ鐵道布設主義ニ、鐵道布設主義ヨリ鐵道借款主義ニ、鐵道借款主義ヨリ一般借款主義ニ層々変遷シ來レルノ歴史沿革アリ之ヲ單純ニノ取引ト見做シ外交政策及ヒ條約關係等ヲ無視シ行動セ

一二一 対中国借款善後策ニ閥スル件 九一六 九一七

ントスルハ危險千万ト謂ハサルヘカラス対支那借款ハ對支外  
交ノ沿革ヨリ顧ミ我外交ノ重要ナル部分ナリ之ヲ財務官一手

ニ委シ進行セントスル絶対ニ不可ナリ」

二、「公使館ニ附屬ノモノニシテ公使意図方針ヲ受ケ進止スル  
官ハ公使館ニ附屬ノモノニシテ公使意図方針ヲ受ケ進止スル

ヲ本義トセサルヘカラス」

九一六 十月二十九日 閣議決定

対支借款善後ニ閥スル覺書

支那ニ対スル借款ニシテ列國ノ疑惑ヲ招キ延テ大局上帝國  
ノ支那ニ対スル立場ヲ不良ナラシメ若ハ支那政界一部ノ勢  
力ヲ援助スルニ止マリ從テ其勢力ノ消長ニ依リ直ニ借款ノ  
効力ニ多大ノ影響ヲ受クルノ虞アルモノハ一切之ヲ避クル  
コトヲ要ス從テ(1)借款ノ性質如何ヲ問ハス苟モ現下ノ支那  
南北ノ争乱ヲ助長スルノ用ニ供セラルカ如キ借款及資金  
ノ交付ハ當分ノ間其中央政府ニ対スルト地方官憲ニ対スル  
トヲ問ハス原則トシテハ一切之ヲ差控ヘ以テ南北妥協促進  
ニ資シ又(2)從テ苟モ政治借款ノ性質ヲ有スルモノハ實業借  
款ノ仮面ノ下ニ四国團体規約ヲ潜ルカ如キコトヲ避ケ誠実  
ニ四国團共同ノ事業トスヘシ

將又既ニ調印ヲ了シタル本邦人關係借款ニシテ前記ノ方針

写別紙ノ通り及御送付候也

註 別紙ハ前掲ニ付省略ス

(附記)

十月三十日岡部書記官神野大藏次官会談

我銀行及会社ニ対中國借款方針布達方ニ閑スル件

十月三十日岡部書記官神野大藏次官ヲ往訪シ予テ次官ヨリ

依頼アリタル対支借款方針ノ閑議決定ヲ手交シタル上中

日新電話借款ノ經過ヲ説明シタル処次官ハ新内閣ノ対支借

款大方針決定ノ上ハ三銀行ニ対シテハ各代表者ヲ呼出シ大

藏省ヨリ篤ト申聞ケ置クヘキモ中日実業、東亞興業ノ類ヲ

始メ其他ノ民間会社等ニ対シ右方針ヲ徹底セシムルハ外務

省ヨリナサルヘキヤ將又大藏省ヨリナスヘキヤ何レトモ外  
務省ノ意向承知シ度キ旨ヲ告ケラレタリ

(右徹底ノ方法トシテハ左ノ二方法ノ内ヲ択フコト然ル  
ヘシ

- (一)一般的ニ宣明ヲ呼出シタル上一々申聞クルコト  
(二)関係会社代表ヲ呼出シタル上一々申聞クルコト

(欄外註記)

「今後本邦資本家ノ対支借款ハ交渉開始前予メ外務省又ハ在  
支公使ニ申報シ其ノ指示ヲ受クルコトヲ要ス此ノ手続ヲ経ス

一二 対中國借款善後策ニ閑スル件 九一八

九四六

ニ抵触シ善後処分ヲ講スルノ余地アルモノハ関係各官庁間  
ニ於テ其処分ヲ協議決定スルコトト致度

九一七 十月二十九日 内田外務大臣ヨリ  
原總理大臣及其他宛

十月二十九日閣議決定ノ对中国借款善後ニ閑

スル覺書写送付ノ件

附記 十月三十日岡部書記官、神野大藏次官会談

閑スル件

政機密合送第三七八号

原總理大臣

田中陸軍大臣

加藤海軍大臣

高橋大蔵大臣

山本農商務大臣

野田通信大臣

上原參謀總長

島村軍令部長

各通

岡部書記官

対支借款善後ニ閑スル覺書写送付ノ件

十月二十九日閣議ニ於テ決定ノ対支借款善後ニ閑スル覺書

シテ交渉ヲ進行スルモノハ政府ニ於テ何等ノ保護ヲ与ヘサル  
ヘキ旨ヲ各会社へ書面ニテ通知シテハ如何」

(附箇)

「欄外記載ノ通大藏次官ニ語リタル處之ニ同意セラレ尚三銀  
行代表者ハ今日呼出アルニ付対支借款方針ヲ口頭ニテ達シ置  
ク答ナル旨ヲ告ケラレタリ

十一月一日

岡部書記官

九一八 十月二十九日

内田外務大臣ヨリ  
在中国芳沢臨時代理公使宛(電報)

对中国借款善後方針ニ閑スル閣議決定通報ノ

件

第一〇〇六号

対支借款善後ノ件ニ閑シ十月二十九日閣議ニ於テ左ノ通り

決定セリ御含迄

(十月廿九日閣議決定ノ对中国借款善後ニ閑スル覺書全文)

右在上海、廣東、漢口、南京、天津ニ転電アリタシ

尚陸軍大臣ニ於テハ二千万円ノ所謂參戰借款丈ハ使途監督

方法モ嚴重ニ成リ居ルコト故除外例ト為スコトノ了解ノ下

ニ右決定ニ同意セルモノナリ御含迄申添ユ

註 覚書全文前掲(九一七文書)ニ付省略ス尚右覺書全文ハ同  
日在英珍田大使宛第六一一号ヲ以テ電報セラレ且在米仏伊

各大使ニ転電セシメラレタリ

九一九 十一月八日 山本農商務大臣宛

**中国國立製鐵廠ニ対スル借款契約ニ關シ意見  
上申ノ件**

**附屬書**

参考資料（二）（一）（三）

**支那國立製鐵廠ニ対スル借款契約ニ關スル意見**

我國ニ於ケル鐵鉱ノ埋藏量ハ約老億噸朝鮮内地七千万噸ニ過キス  
然ルニ鐵ノ需要ハ諸工業ノ發展ニ伴ヒ逐年增加ノ趨勢ヲ示  
シ製鐵調查會ニ於ケル調査ニ拠レハ大正十七年ニ於テハ三百  
百余万噸ニ達スヘキ見込ニシテ之ニ要スル鐵鉱ハ六百余万  
噸ニ上ルヘク從テ上記ノ如キ貧弱ナル埋藏量ヲ以テシテハ  
其掘尽ノ期近キニ在ルハ明白ナリ

是ヲ以テ我製鐵自給策ヲ確立セントセハ勢ヒ其原料タル鐵  
鉱ヲ他國ニ仰カサルヘカラス而シテ支那ハ農商務省ニ於ケ  
ル今日迄ノ調査ノ実蹟ニ徴スルモ其埋藏量ノ豊富ナルハ疑  
ナキ所ニシテ且其地理的並經濟的ニ我國ト密接ナル關係ヲ  
有スル点ニ鑑ミ我製鐵原料供給國トシテ最重要視スヘキハ  
言ヲ俟タス

故ニ從來我官民共ニ支那ニ於ケル鐵山ニ着目シ此ニ關スル

利權ノ獲得又ハ鐵鉱ノ買入ニ付種々画策スル所アリト雖支  
那官憲ハ直接間接諸種ノ妨害ヲ加ヘ且鐵鉱國有ノ準備トシ  
テ採探鐵鉱暫行弁法等ヲ制定シ我數回ノ抗議ヲ無視シ外國  
ニ対スル鐵鉱閉鎖ヲ断行セントスル氣勢ヲ示シ為メニ外人  
ノ鉱業上ノ投資並経営ニ關スル條約ノ保障モ亦殆ト空文ニ  
終ラントスルノ現状ニ在リ

今ニシテ此障害ヲ除却スルニアラスンハ我製鐵業者ハ原料  
給ノ保障ヲ得テ以テ将来我製鐵自給ノ大策ヲ樹テンコトヲ  
ニ因リ漸ク發展ノ曙光ヲ認メツツアル我製鐵業ハ遂ニ挫敗  
ノ已ムナキニ至ルヘシ故ニ目下ノ急務ハ支那ヲシテ暫行弁  
法其他類似ノ法規ヲ撤廃セシムルト同時ニ其官憲ノ態度ヲ  
改メシメ以テ完全ニ日支提携ノ実ヲ挙クルニ在リ此根本問題ヲ  
解決セスシテ徒ニ本製鐵借款契約ニ依リ我製鐵原料供  
給ノ保障ヲ得テ以テ将来我製鐵自給ノ大策ヲ樹テンコトヲ  
期スルニ至リテハ抑々誤レリト謂フヘク況シヤ本製鐵所借  
款ニハ左記ノ如キ欠陥ノ存スルニ於テオヤ

一、本契約ニ基ク國立製鐵廠ノ設立ハ大蔵省見解ノ如ク鐵  
鉱國有主義ノ實行ニ外ナラストセハ明ニ條約違反ニシテ

認容シ難キ所ナリ仮リニ一步ヲ譲リ本契約第三条ハ單ニ

セス

一定ノ鐵鉱區域ヲ限リ本鐵製廠ノ附屬タラシムヘキヲ定  
メタルモノニシテ広ク鐵鉱國有主義ヲ實行スルノ趣旨ニ  
アラストスルモ本契約ニ於テハ特ニ其所屬鉱區ノ範囲ヲ  
限定セサルヲ以テ若シ支那ニ於ケル主要鐵山ノ多數ヲ其  
所屬トシ其他ノ鐵山ニ付テハ壳鉱禁止等ノ方法ヲ採ルニ  
於テハ事實ニ於テ鐵鉱國有ヲ實行スルト同一ノ結果ニ陷  
リ我製鐵原料取得上由々障礙タルヘキハ明白ナリ

五、本契約附屬書ニ依レハ我國カ支那政府ヨリ鐵鉱ノ供給  
ヲ受ケ得ル期間ハ本製鐵廠カ完成セサル間ニ限ラル從テ  
其期間ハ極メテ短ク此期間内ト雖果シテ確實ニ供給ヲ受  
ケ得ヘキヤ大ニ懸念無キ能ハス

又本製鐵廠完成後ニ於ケル製鐵供給高モ供給契約第一条  
ニ依レハ「製鐵總額中ヨリ支那自身ノ需要ヲ控除シタル  
残余ノ外國輸出額中ヨリ日本ニ對シ供給スヘキ額ヲ政府  
ニ於テ決定スヘシ」ト云フニ止マルヲ以テ亦確實ニ相当  
数量ノ供給ヲ予期シ得ヘカラサルハ明白ナリ

本借款金ハ支那政府ニ於テ自ラ其財源ニヨリ資金ヲ調達  
スル場合ニハ一ヶ年前ノ予告ヲ以テ何時ニテモ還済シ得  
ルヲ以テ此点ヨリ見ルモ鐵鉱又ハ製鐵ノ供給ハ甚タ不確  
実タルヲ免レス

大正七年十一月八日

農商務大臣 山本達雄

四、本借款金ノ用途ニ關シテハ契約第九条ニ依リ之ヲ制限

セルモ其限定ノ範囲明瞭ナラス從テ實際ニ於テハ種々ノ  
問題ヲ生シ徒ニ弊竇ヲ釀生スルノ結果ニ終ルノ虞ナシト

一二一 対中國借款善後策ニ關スル件 九一九

虞アリ

註 本書ハ外務大臣ヨリ首相ニ返戻シ外務省記録存スルハ其写

九四九

參考資料(一)(二)(三)

(1)

銑鐵及鋼材需要見込高  
(調査ニ依ル)

年次	鋼材需要見込高	鋳物銑鐵需要見込額	備考
大正七年	一、一二三、〇〇〇	三六〇、九〇〇	鉄鋳物需要總見込高
大正九年	一、五五、〇〦〦	四〇〇、〇〦〦	
大正十二年	一、七六、〇〦〦	五三、八〇〇	
大正十四年	一、七六、〇〦〦	六七、五〇〇	
大正十七年	二、二三、〇〦〦	七四三、〇〦〇	
		三、〇六、二〇〇	

11

甲、支那揚子江流域 湖北省 安徽省

湖北省	鐵
鄂城縣鄂城 紀家絡地方	山
赤鉄鉱 磁鐵鉱	名
七百八十六萬噸	鉱
二千二百二十六萬噸	種
二千二百二十六萬噸	量
鄂城興金牛鎮ノ東方 東西約三十五支那 里ニ至ル	鉱

新昌縣小陽冷鐵山  
同 小國山鐵山

乙 露領沿海州

マグニトヌイ鉄山	セラフィモフカ鉄山	ムラモルヌイ鉄山	ウラディミール鉄山	ザロット鉄山	ウグロツヤ鉄山	ニコライエフスキ工鉄	山	山名
磁鐵鉱	磁鐵鉱	磁鐵鉱	磁鐵鉱	同	同	同	同	鉱種量
二十万噸以下	二十万噸以下	二十万噸以下	二十万噸以下	少	少	少	少	鉱量
二	二	二	二	少	少	少	少	量

九二十一月十一月

## 对中国借款問題二閔スル外務大蔵及農商務省会議ノ議事記及決議ノ件

註  
欄外ニ「本文省略」ト記入シアリ

農商部令第一九號

採鉄鉱暫行弁法

英支間改訂條約（千九百二年九月八日）  
米支通商條約（千九百三年十月八日）

支那銅鈎國有問題ノ経過ト之ニ対スル交渉顛末ノ大要

三

セルギイコブヌギ一銭  
山 鉄山 オノフルナヤ、ガラ一

同

少

支借款問題會議

於外務大臣官邸

列席者

内 田 外 勿 大 臣	山 本 農 商 勿 大 臣
高 橋 大 蔵 大 臣	犬 塚 農 商 勿 次 官
幣 原 外 勿 次 官	小 檻 駐 支 公 使
埴 原 政 勉 局 長	小 村 政 勉 局 第 一 課 長

議事ニ入ルニ先チ小幡公使ヨリ帝国ノ対支外交上ノ障碍トシテ左ノ四点ヲ挙ケ之カ改善方ニ付注意ヲ喚起シタリ

第一、日支間ニ現存スル誤解ヲ根本的ニ除却スルコト之カ

為ニハ從来ノ如キ侵略主義ヲ拠棄シ万事公正ノ態度ヲ以

テ支那ニ対スルノ要アルヘシ

第二、在支外国人ノ対日反感熾烈ナルコト從テ成ルヘク外國人ノ権利ヲ無視シ其ノ感情ヲ害スルカ如キ政策行動ニ

出テサルコトニ努ムルノ要アルヘシ

第三、從來対支外交上帝国政府ノ施措統一ヲ欠キ為ニ幾多

ノ不利ヲ招キタルハ頗著ノ事實ナリ仍テ今後ハ対支外交機関ヲ統一スルノ要アルヘシ

第四、日本ニハ南方派、北方派、宗社党乃至利權主義者又ハ文化主義者等アリ其ノ支那ニ対スル見解思想帰一スル所ヲ知ラス此ノ如クンハ支那ニ対スル帝国ノ政策ヲ遂行スルコト極メテ難事ナリ仍テ相成ルヘクハ國論ノ一致ヲ希望スルモ少クトモ新聞論調丈ニテモ之ヲ指導シ帝国ノ対支態度統一ニ便ニスルコトシタリ

右要項ニ基キ小幡公使ヨリ説明スル所アリ之ニ対シ内田外務大臣ヨリ右ハ大体同感ナルモ其ノ実行不鮮困難ナルヘシ然シ折角之力遂行ニ努ムヘシトノ意ヲ述ヘ山本農商務大臣其他モ亦小幡公使ノ所述ニ同意ヲ表シタリ

## 議事

議事ニ入り小村課長ヨリ十月二十九日閣議決定ノ次第竝紙蘆蕪版（列席者ニ配布セリ）前文ヲ朗読シタルニ後段

「尤モ目下ハ南北對峙ノ状勢特ニ緊張シ居レル際ナルヲ以テ差当リ此種借款ト雖成ルヘク差控ヘシムルコト大局上得策トス」トノ点ニ閔シ高橋大蔵大臣ヨリ「日支個人間又ハ銀行間ノ貸借ノ如キハ差支ナカルヘシ」トノ意見アリ之ニ

対シ幣原外務次官ヨリ「右ハ勿論ナリ個人間ノ貸借等ニ在リテハ所謂政治借款又ハ実業借款ノ問題ヲ生セス茲ニ問題トスルハ支那政府筋ヲ相手トスル借款ニノミ限ラルモノナリ」トノ説明アリ

次テ内田外務大臣ヨリ南北妥協ノ上ハ孰レ大借款ニ応セサルヘカラサルコトナルヘキカ其ノ際他國ニ於テ都合悪シキ場合ニハ日本限リニテ二、三億ノ借款ニ応スルノ覺悟アルヤ否ヤ高橋大蔵大臣ニ対シ質問アリ大蔵大臣ヨリ在外正貨ノ堆積ハ必スシモ放資力ノ豊富ヲ意味スルモノニ非サル旨説明アリ一億ノ出資ト雖モ頗ル難シトスモ愈々其ノ時期ニ至ラハ何等カノ方法ヲ講スヘシトノ回答アリ

## 決議

日支個人間ノ貸借ノ件ニ閔スル前記了解ノ下ニ別紙蘆蕪版

前文ノ通り決定

次テ別紙蘆蕪版所載西原關係借款始末方ニ閔スル議事ニ入ル

## (イ)吉黒森林金礦借款

本借款ト日露密約トノ關係、在本邦露国大使及在北京露国公使抗議ノ次第ニ付幣原次官及小幡公使ヨリ説明スル所アリ

小幡公使北京赴任ノ上ハ在北京露国公使ヨリ本件ニ付質問アルヘキ處之ニ対シテハ大体別紙蘆蕪版(イ)ノ趣旨ヲ含ミ本件借款ノ事實ヲ肯定スルト共ニ本件借款ト日露密約ノ關係ニ付テハ目下帝國政府ニ於テ折角考量中ナル旨ヲ答フルコト、一方技師派遣方ニ閔シ支那政府ヨリ督促アラハ相當挨



### 二二 対中国借款善後策ニ関スル件 九二〇

五六

何等政治的費途ニ費消セラルコトナク而モ外間ノ誤解ヲ  
モ惹起スル虞ナシト認メ得ル借款ニ対シテハ我資本家ニ於  
テ之ニ応シ差支ナキコトト為シ可然尤モ目下ハ南北対峙ノ  
状勢特ニ緊張シ居レル際ナルヲ以テ差当テハ此種借款ト雖  
成ルヘク差控ヘシムルコト大局上得策トス

以上ノ方針ニ従ヒ所謂西原關係借款ハ左ノ通始末スルコト  
然ルヘシト認ム

#### (イ) 吉黒森林金鉱借款

露國側抗議ノ次第ニモ顧ミ本件借款条項中日露協約ノ精神  
及条項ニ鑑ミ當ヲ得サルモノハ追テ之カ改訂ヲ行フニ努ム  
ヘキ旨並差当リ露國ノ正當ノ利益ヲ損傷スルノ虞アル条項  
ニ付テハ我關係者ヲシテ一切其実行ヲ見合ハサシムヘキ旨  
ニ露國側ニ言明スルト共ニ進テ本借款ニ基ク事業ヲ日露協同  
ニヨリ經營スルカ如キ組織ニ改メ以テ露國關係ヲ解決シ且  
本借款ノ活用ヲ計ルヘシ（本借款金參千万円ハ已ニ支那側  
ニ交付済ナル趣ナリ尤モ内式千万円ハ我銀行ニ支那政府勘  
定トシテ預金シアリタルカ目下其ノ儘トナリ居レルヤ否ヤ  
確ムルヲ要ス）

#### (ロ) 吉会鐵道借款

(四記註外欄) 本鉄道借款本契約案ニ付テハ更ニ外務大藏両省間ニ篤ト協  
議ヲ遂ケ關係者ヲシテ速ニ其ノ成立ヲ図ラシムルコトトス  
ヘシ（滿蒙鐵道及山東鐵道借款ノ部参照）

#### (ハ) 滿蒙四鐵道及山東兩鐵道借款

是等諸鐵道及前記吉会鐵道ハ何レモ仮契約締結ト同時ニ巨  
額ノ前貸金ヲ交付シ居レル次第ニ付速ニ本契約締結ノ措置  
ヲ講スルニアラサレハ其ノ成立困難トナル虞アリサレハ此  
等諸鐵道ハ何レモ資金ノ流用ヲ為シ得サル方法ヲ講シテ適  
当ノ契約案作成ノ上關係者ヲシテ急速本契約ヲ締結セシム  
ヘシ尤モ以上滿蒙鐵道（吉会鐵道ヲ含ム）及山東鐵道ハ此  
際其ノ全部ノ敷設ヲ図ラムトスル次第ニハアラス此際其ノ  
急設ヲ圖ルヘキ鐵道トシテハ右ノ中開原海竜鐵道又ハ内蒙  
海港間鐵道及山東兩鐵道ヲ選フコト適當トス尤モ山東鐵道  
ハ兩線共同時ニ敷設スルコト困難ナルニ於テハ先ツ濟南延  
長線ヲ第一ニ選択スヘシ而シテ濟南延長線トシテハ濟南順  
德線ハ余リニ北方ニ偏シ寧ロ天津ノ勢圈ニ屬スルノミナラ  
ス順德ヨリ西方ニ延長スルコト地勢上殆ト不可能ニ付有利  
ナラス仍テ濟南延長線中最モ有利ナル濟南道口鎮線ニ改ム  
ルコトトスヘシ（道口鎮線ヲ選フ以上ハ英國ノ現ニ經營代  
ハ別ニ考究スヘシ又本件借款本契約ニ付テハ津浦鐵道ノ如  
キ不利ナル借款契約ヲ標準トスルコトナク浦信鐵道若ハ四  
鄭鐵道並ノモノトスルヲ必要トス殊ニ此際直チニ敷設ニ着手  
スル鐵道ニ付テハ其資金ノ費途ヲ嚴重ニ監督スル点ヨリ  
見ルモ浦津四鄭並即チ會計主任ノ傭聘ヲ緊要トス

#### (二) 製鐵所借款案

國立製鐵所ハ支那側ニ於テ希望アラハ之ヲ設立セシメ我方  
ヨリ所要資金ヲ供給スル等相當ノ援助ヲ与フルモ差支ナシ  
尤モ從來支那側トノ間ニ殆ト了解成リ居レルカ如キ方法ハ  
支那ノ鐵鉱ニ關スル排外閉鎖主張ヲ我ヨリ進テ是認スルモ  
ノナルニ付右製鐵所借款案ノ内容ニ適當ノ変更ヲ加フルコ  
ト必要ナリ即チ右製鐵所所要鉱石ハ鳳凰山其他本邦人及外  
国人側ニ於テ已ニ關係ヲ有スル鐵山以外ヨリ供給ヲ受クル

コトトスルト共ニ右借款ヲ供給スルニヨリ若ハ例ヘハ農商  
部年来ノ宿望タル拓殖銀行ノ如キモノノ新設ニ要スル資金  
ヲ我ヨリ供給シ以テ農商部側ノ立場ヲ鞏固ナラシムルカ如  
キ方法ヲ講スルニヨリ代償的ニ鐵鉱暫行弁法ノ類ノ排外的  
法規ノ撤廢ヲ實行セシムルコト緊要トス

#### (三) 金券条例問題

金券条例ニ關スル日本側ト支那側トノ間ニ於ケル裏面的行  
懸リハ之ヲ一掃シ幣制借款ノ常道ニ返リテ措置スヘキハ勿  
論ナリトス從テ之カ為メニハ金券条例ノ實行ニ反對スル関  
係國ト全然行動ヲ共ニシ其ノ中止ヲ強制スルモ一案タリ又  
斯クテハ列國トノ協調ハ全然保持セラルモ其ノ支那政府  
ノ体面ヲ傷クルコト甚タシク且又自然カカル日本側關係ノ  
計画ヨリ延イテ支那政府ト四國團トノ決裂的狀態ヲ惹起ス  
ルニ至ルコト亦極メテ面白カラナル次第ニシテ此点又考慮  
ヲ要スルニ付此際直チニ金券条例ノ廃止迄モ迫ルコトハ差  
控ヘ當分成ルヘク此儘ニナシ置クト同時ニ銀行團ノ主張ヲ  
モ參酌シ兎モ角此際支那政府ト四國團代表者トノ間ニ幣制  
借款ニ關スル交渉ヲ続行シ且幣制改革問題ニ付テモ協議セ  
シメ其ノ結果支那側自發ノ行為トシテ四國團側ノ満足スル

(五記註外欄)

(六記註外欄)

## 一一一 対中国借款善後策ニ関スル件 九二〇

九五八

様実質及形式ニ金券条例ヲ適宜改正スルコトトセハ然ルヘシト認メラル

(イ) 団匪事件賠償金拠棄問題ハ南北統一後迄其ノ実行ヲ見合ハセ必要ノ時機ニ至リテ其ノ実行方法ヲ審議立案スルコト

トスヘシ尤モ右拠棄問題ハ崇高ナル道義ヲ基礎トスヘキ問題ニシテ単純ナル経済的施設ト関聯セシムヘキ性質ノモノニ非ズ從テ之ヲ以テ支那国民感情ノ融和日支ノ精神的接触ヲ因ル文化共益政策ノ一基礎タラシムルヲ要ス

(ト) 鉄道借款團ノ組織ハ已成外国鉄道借款及勢力区域等トノ關係ヨリ問題ノ性質極メテ紛糾ヲ起シ易キ虞アリ且本件ハ未タ兩当事者間ニ何等成案ヲ見ルニ至ラサリシニ付此儘中止スヘシ

(欄外註記)

一、「大藏大臣ノ同意ヲ要ス從テ更ニ一回當局者ノ会合ヲ催

スコト便宜ナルヘシ(農相ニモ出席ヲ請フコト)」

二、「對外借款ハ一切予メ外務省側ノ指示ヲ受クルヲ要スル件ニ付テハ別案ニ譲ル」

三、「此ノ目的ノ為ニハ本借款ノ條項ヲ露國側ニ打明クルノ覚悟アルコトヲ要ス又露國ニ言明スルニ先チ如何ナル条項カ露國ノ正当ノ利益ヲ損傷スヘキヤヲ調査決定スルコトヲ要ス」

## (附屬書二)

中村関東都督ヨリノ來電写

四、「(甲)及(乙)鐵道借款ノ前貸金ハ之ヲ建設費中ニ繰入ル、コト得サルハ明瞭ナリ結局實質上ハ之ヲ鐵道借款ヨリ分離シ大藏省ヨリ低利資金ヲ以テ三銀行ニ融通スルノ外ナルヘキカ」

五、「製鐵所借款ハ未タ成立セサルコトト了解ス果シテ然ラハ一旦打切トシ将来ノ事ハ別問題トスルコト可然」

六、「本件ニ關スル寺内内閣ノ閣議アリ其ノ始末等ニ關シ農相ヨリ提案アル答(内田大臣)」

務局長ニ提出セラレタルモノナリ

九二一 十一月十九日 開議決定

本邦資本家ノ中國及西比利亞方面ニ對スル借

款交渉取扱方ニ關スル件

一、爾今本邦資本家ニ於テ支那及西比利亞方面ニ對スル借款又ハ類似ノ交渉ヲ開始セムトスルニ當リテハ必ス先ツ

之ヲ外務省若ハ在外帝国大公使館又ハ領事館ニ申報ノ上

指示ヲ受ケシメ尚隨時交渉ノ経過ヲ申報セシムルコト

二、大公使館又ハ領事館ニ於テ第一項ノ申報ニ接シタルトキハ速ニ之ヲ外務省ニ報告スルコト

三、外務省ニ於テ第一項ノ申報又ハ第二項ノ報告ニ接シタルトキハ速ニ之ヲ大藏省及其ノ他ノ關係官庁ニ移牒スルコト

四、外務省ハ大藏省及其ノ他ノ關係官庁ト協議ノ上關係資

本家ニ対シ隨時指示ヲ与フルコト

五、第一項及第四項ノ指示ヲ待タス又ハ指示ニ反シテ交渉ヲ進行スルモノハ政府ニ於テ保護ヲ与ヘサルコトアルヘキコト

一二 対中国借款善後策ニ關スル件 九二一 九二二

六、問題ノ性質又ハ交渉進行ノ程度ニ依リテハ關係資本家ヲシテ直接ニ大藏省又ハ其ノ他ノ關係官庁ノ指示ヲ受ケシムルコトアルヘキコト

九二二 十一月二十六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ

福田參謀次長宛(電報)

坂特第九四号

(十一月二十九日外務省接受)

參戰軍編成準備ハ予定計画ノ如ク進捗シ軍官教導団学生七百八十名軍士教導団生徒三千八百名ノ入団ヲ終リ交通軍需軍医ノ三教練處ノ開設準備中ニアリ只借款資金未到着ノ儘既ニ一箇月ヲ超エントシ當局ハ頗ル困難ノ結果業務ノ進行ニ躊躇ノ色ヲ表ハシ来レルヲ遺憾トス然レトモ小官ハ第一次借款カ既ニ支那代表者ノ手ニ帰シアルコト竝ニ日本當局者ハ(不明)殊ニ參戰軍ノ編成教育ヲ完全ナラシメンカ為第二次借款ニモ応スヘキ決心準備ヲ為シ居ル旨ヲ述ヘ斯雲鵬以下ヲ激励シツツアリ

昨二十五日斬督練軍官軍士両教導団長訓練處參謀長各課長竝ニ小官其他應聘武官列席ノ會議ヲ開キ先ツ過日來調查中

九五九

一一一 対中国借款善後策ニ関スル件 九二三 九一四

九六〇

ナリシ野戰師團ノ累次編成ヲ決定シ次テ兵器器具（五字不明）ノ準備兵營ノ配當建築修繕交通軍需軍医三教練處ノ設置竝ニ教育方針ノ大綱ヲ議定セリ

右ノ結果坂特第九二号ノ如ク我軍医一名ヲ招聘スルコトトナリ尚小官ノ輔佐官トシテ參謀勤務ニ服スヘキ者二名招聘スヘキヲ承認セリ尚第二次借款トシテ重砲兵聯隊騎兵旅団同機関銃隊各兵科教練所竝ニ借款監督ヲ容易ナラシムルト同時ニ經理事務ノ改良ヲ圖ルノ目的ヲ以テスル經理ノ独立ニ要スル被服、糧秣、兵器廠及ヒ軍需補充機關ノ新設既設各機關ノ繼續等予算合計銀千八百万元即チ邦金約三千万円ヲ要スル次付右予メ特別御詮議ノ上承認シ置カレタン右借款成立ノ見込立チ經理ノ使途確定セハ差当リ騎兵野戰砲兵、重砲兵教練所指導ノタメ我力將校ヲ招聘ス可キニ付予メ選抜シ置カレタシ就中重砲兵ノ者ヲ先ツ派遣セラレ度考ナリ

拓秘第一四四七号  
大正七年十一月三十日  
(十二月二日接受)

問合ノ件 拓殖局長官法学博士 古賀廉造(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

支那及西比利亞方面ニ對スル借款ノ件

貴省ヨリ御送付ニ係ル本件ニ關スル十一月十九日閣議決定書写第一項中「借款又ハ類似ノ交渉ヲ開始云々」ノ字句有之候哉又本邦法人力該方面ニ於テ同国人若ハ同國法人ニ對シ貸付金ヲ為サムトスル場合ヲモ右類似ノ交渉ト看做サルル義ニ有之候哉為参考承知致置度候条何分ノ御回報相煩度及照会候也

第一一二一號（至急）  
貴電第一六八六号ニ閱シ  
往電第一一〇六号借款手続ノ件ハ當地ニテハ英訳文公表ノ要ナキニヨリ之ヲ作成セサリシニ付必要アラハ貴館ニテ可然作成セラレタシ

註 前掲一三七文書ノ別電  
(附記)  
对中国借款交涉手続ニ關スル岡部書記官及神野大藏次官会談要領  
十一月大藏次官往訪ノ序ヲ以テ本件ニ付左ノ通談合セリ  
一、今般对支借款手續ニ關シ政府公表ノ結果今後統々申報シ來ルヘク外務省ニ於テハ借款主任ヲ設ケ之ヲ取扱フコト、ナリ自分カ之ニ当ルコト、ナレル次第ナルカ大藏省ニ於テモ主任官ヲ設ケラレタキ旨申入レタルニ次官ハ富田國庫課長ヲ以テ之ニ当ツヘキ旨答ヘラレタリ

一、借款交涉ニ關シ申報ヲ受ケタル場合ニハ出来得ル限り速ニ指示ヲ与フルコト、シタキニ付大藏省ニ於テモ可成速ニ協議ヲ纏メラレタキ旨申入レ置キタリ（尚且下電話輻輳勝ニ付本件ニ閑シ至急通話ヲ要スルコト多カルヘキ

一一 対中国借款善後策ニ關スル件 九一四

拓秘第一四四七号  
大正七年十一月三十日  
(十二月二日接受)

問合ノ件 拓殖局長官法学博士 古賀廉造(印)

外務次官 幣原喜重郎殿

支那及西比利亞方面ニ對スル借款ノ件

九二三 十一月三十日  
幣原外務次官宛  
古賀拓殖局長官ヨリ

本邦資本家ノ中国及西比利亞方面ニ對スル借  
款交涉取扱方ニ關スル閣議決定中ノ疑義ニ付

九二四 十二月四日  
内田外務大臣ヨリ  
在中国公使宛(電報)

中国及西比利亞ニ對スル借款ノ手續ニ關スル

附記 对中国借款交涉手續ニ關スル岡部書記官及神野

大藏次官会談要領

ニ鑑ミ直通電話ヲ架設シタキ旨ヲ申出置ケリ)

一、申報ニ接シタル場合ニハ々大藏省ニ協議ノ上指示ヲ与フルハ隨分煩ハシキニ付多少斟酌ヲ加ヘテ協議スルコト、シ可然哉ヲ尋ネタルニ借款ノ性質上疑義ヲ容レサルモノハ直チニ指示ヲ与ヘラレ事後ニ通報ヲ受クルノミニテ差支ナシ（通報丈ハ是非受クルコトトシタシ）但銀行關係ノモノハ予メ協議サル、コト、シタシトノコトナリヤ有利ナル純粹ノ実業借款ニ對シテハ相當便宜ヲ与ヘ之ヲ獎励スヘキモノト思考セラル所謂羹ニ懲リテ膽ヲ吹クカ如キハ本意ニ非サルヘシト述ヘラレタルニ付本官モ同感ナル旨ヲ答ヘタリ

一、尚、序ヲ以テ三菱申出ノ廣西省錫借款及中日申出ノ湖北省製鐵廠ノ件ヲ通報シタルニ大藏次官ハ後者ノ如キハ有利ナル事業ナルヘキ旨ヲ述ヘラレタリ

岡部書記官

註 十二月三、五日頃ト認メラル

九二五 十二月五日

内田外務大臣ヨリ  
興業銀行總裁  
台灣銀行頭取  
宛

## 吉会鐵道借款問題善後方針通達ノ件

附属書 右善後方針

政機密送第九七号

## 吉会鐵道借款問題善後方針ノ件

大正七年六月十八日貴行側ト支那政府トノ間ニ予備契約ノ成立ヲ見タル吉会鐵道借款問題ニ付キテハ十二月四日大体御承知ニ入レ置候通別紙ノ方針ニヨリ善後処置ヲ圖ルコトニ決定致候ニ付右ニヨリ至急御措置相煩度此段申進候也追テ右ハ大藏省トモ打合済ニ有之為念申添候也

(欄外註記)

「電居満鉄理事ヘハ内達済ナルモ更ニ同様書面ヲ以テ通達ノコト」

註 宛名ハ興銀及鮮銀両總裁並台銀頭取ノ三者連名トセラレタリ

## (附属書) 吉会鐵道借款問題善後方針

一、大正七年六月十八日調印吉会鐵道予備契約規定ノ借款本契約締結期限タル六ヶ月ハ十二月十七日ヲ以テ満了スル

ニ付不取敢在支帝國公使ヨリ支那外交部若ハ交通部ニ對シ本鐵道借款本契約締結ノ為メ十二月某日頃ヲ以テ北京ニ於テ我關係当事者ヨリ支那當局ニ交渉開始ノ手筈トナルヘキ旨通告スルコト尤モ右期日ハ六ヶ月ノ期限内トシ且ツ實際右期限内ニ交渉ニ着手スルコト

一、本鐵道借款本契約ハ三銀行ニ於テ締結スルモ三銀行ハ唯借款資金ノ閑スル限り閑与スルコトトシ其他技術運輸等鐵道ノ実務ニ関スルコトハ満鉄側ニ於テ担任スルコト政府ニ於テ異議ナシ(從テ技師長運輸主任会計主任等ハ満鉄側ヨリ推薦スルコトトナルヘシ)又右ノ如ク三銀行ノ契約上有スル権利義務ノ一部ヲ満鉄ニ於テ担任スルニ付テハ先般興業銀行側提出ノ本契約草案第二十四条ノ如キ規定ヲ設ケ右ニヨリ三銀行ヨリ満鉄ニ譲渡若ハ委任スルノ形式トスルコト亦政府ニ於テ異存ナシ

一、本鐵道予備契約成立ト同時ニ支那側ニ交付セル千万円ノ前貸問題ニ付テハ大藏省三銀行及満鉄各關係者間ニ適当ノ方途ヲ協議決定スルコト右ハ大藏省ニ於テモ同意ナリ

一、三銀行ニ於テ支那政府トノ間ニ締結スヘキ借款本契約案ニ付テハ先般興業銀行提出ノ同行案ヲ基礎トシ外務、大

藏、三銀行及満鉄各關係者協議ノ上至急適當ノ草案ヲ作成スルコト但シ右ニ付テハ成ルヘク先般締結ノ吉会鐵道予備契約ノ範囲ヲ脱セサルコト然ルヘク且ツ日支両国双方ノ利益ヲ考慮スルコト

一、以上諸般ノ措置ヲ了シタル上三銀行代表者ハ直チニ北京ニ赴キ支那側ト交渉ヲ開始スヘキコト且ツ若シ能フヘクンハ満鉄ヨリモ臨時社員ヲ派出張セシメ裏面ニ於テ交渉ニ参与スルコト尚右交渉開始ニ付テハ日本公使館ニ於テ適宜援助ヲ与フルコト勿論ナリ

一、尚万一本借款契約成立シタル場合ニハ資金ノ使途ニ付テハ嚴重ニ監督ノ途ヲ設クルカ若ハ適當ノ方途ヲ講シ苟モ事ニ害ナカラシムコトヲ期スル方針ナリ

九二六 十二月十日 幣原外務次官ヨリ  
古賀拓殖局長官宛  
(電報)

## 本邦資本家ノ中国及西比利亞方面ニ対スル借款交渉取扱方ニ關スル閣議決定中ノ疑義ニ付

回答ノ件

政機密送第四八号

本件ニ關シ客月三十日附拓秘第一四四七号貴信ヲ以テ御照  
一二 対中国借款善後策ニ關スル件 九二六 九二七

政機密合送第一七四号

九二七 十二月二十一日 内田外務大臣ヨリ  
在中国公使及各領事宛

中国ニ対スル借款ノ嚴重取締方ニ付訓令ノ件

九六三

## 対支借款ニ関スル件

對支借款及之力取締ニ関スル帝国政府ノ方針ニ関シテハ先ニ夫々電報致置候ニ付既ニ御承悉ノコト、存候以上ノ方針ハ専ラ支那南北内訌ノ現状ニ鑑ミ其中央タルト地方タルトヲ問ハス苟モ政費ヲ流通シ為ニ紛糾ヲ加フル虞アル借款又ハ類似ノ交渉ヲ取締ラントスル趣旨ニシテ以上ノ虞ナキ純然タル經濟的借款ハ之ヲ阻止セサル儀ナルハ申ス迄モナキ次第ニ有之候然レドモ從来往々ニシテ經濟借款ノ仮面ヲ被リ其実政費ニ流用セラレタルモノアルハ茲ニ縷述ヲ要セサル所ニシテ斯ル借款ヲ默認シタル事例モ有之候ヘトモ今般政府ノ決定ハ如斯仮装のノモノト雖モ嚴ニ之ヲ取締ラントスル趣旨ナルヲ以テ其使途ニ付先ツ厳密ナル查覈ヲ加フルノ要有之候就テハ今後借款又ハ類似ノ交渉開始ニ際シ本邦資本家ヨリ貴館ニ申報有之候場合ニハ以上ノ趣旨ヲ以テ借款ノ金額其他ノ条件カ果シテ其目的ニ相応スルモノニシテ政費ニ流用セラル、虞ナキヤ否ヤ等ニ付慎重ナル考慮ヲ加ヘラル、コト、致度候將又仮令其使途ハ妥当ナリトスルモ借款金ヲ漫然支那側ノ手ニ委附スルトキハ当初ノ目的ニ使用セラレスシテ却テ他ニ流用セラレ延テハ政費ニ充テラル進候也

資ニシキ便益ヲ供与スルカ如キ一切ノ方法ヲ指称スル趣旨ニ有之候尤モ金融業者或ハ商人等ノ普通業務ニ属シ金額ノ少ナルモノハ一々之ヲ取締ルコト到底不可能ナルニ付右ハ常識ノ判断ニ俟ツノ外無之候將又前記閣議決定ハ本邦資本家ト支那ニ於ケル本邦人若クハ本邦法人トノ間ニ於ケル取引ニハ適用セラレサル次第ニ付右御含相成度此段為念申進候也

九二八 十二月二十六日

内田外務大臣ヨリ  
在西比利亞各領事及派遣員宛

## 西比利亞ニ対スル借款ニ付訓令ノ件

経委機密合送第一七六号

対西比利亞借款及之力取締ニ関スル帝国政府ノ方針ニ關シテハ先ニ夫々電報致置候ニ付既ニ御承悉ノコト、存候以上ノ方針ハ専ラ西比利亞ニ於ケル政狀ノ混沌タル現況ニ鑑ミ其中央タルト地方タルトヲ問ハス苟モ政費ヲ流通シ為ニ紛糾ヲ加フル虞アル借款又ハ類似ノ交渉ヲ取締ラントスル趣旨ニシテ以上ノ虞ナキ純然タル經濟的借款ハ之ヲ阻止セサル儀ナルハ申ス迄モナキ次第ニ有之候モ經濟借款ノ仮面ヲ被リ其実ノヲ政費ニ流用セントスルモノ無キヲ保シ難キニ

ハ専ラ支那南北内訌ノ現状ニ鑑ミ其中央タルト地方タルトヲ問ハス苟モ政費ヲ流通シ為ニ紛糾ヲ加フル虞アル借款又ハ類似ノ交渉ヲ取締ラントスル趣旨ニシテ以上ノ虞ナキ純然タル經濟的借款ハ之ヲ阻止セサル儀ナルハ申ス迄モナキ次第ニ有之候然レドモ從來往々ニシテ經濟借款ノ仮面ヲ被リ其実政費ニ流用セラレタルモノアルハ茲ニ縷述ヲ要セサル所ニシテ斯ル借款ヲ默認シタル事例モ有之候ヘトモ今般政府ノ決定ハ如斯仮装のノモノト雖モ嚴ニ之ヲ取締ラントスル趣旨ナルヲ以テ其使途ニ付先ツ厳密ナル查覈ヲ加フルノ要有之候就テハ今後借款又ハ類似ノ交渉開始ニ際シ本邦資本家ヨリ貴館ニ申報有之候場合ニハ以上ノ趣旨ヲ以テ借款ノ金額其他ノ条件カ果シテ其目的ニ相応スルモノニシテ政費ニ流用セラル虞ナキヤ否ヤ等ニ付慎重ナル考慮ヲ加ヘラル、コト、致度候將又仮令其使途ハ妥当ナリトスルモ借款金ヲ漫然支那側ノ手ニ委附スルトキハ当初ノ目的ニ使用セラレスシテ却テ他ニ流用セラレ延テハ政費ニ充テラル進候也

前記閣議決定ニ所謂「借款又ハ類似ノ交渉云々」トハ純然

タル借款ノ形式ヲ具備スル契約ノミナラス例ヘハ手形割引、貸附、代金先払ニヨル売買、商品ノ掛賣、債券ノ買入、合辦事業ニ依ル投資、借款ノ借換等苟クモ金融或ハ物

九日閣議決定ノ通ニ付右御承知相成度候  
前記閣議決定ニ所謂「借款又ハ類似ノ交渉云々」トハ純然タル借款ノ形式ヲ具備スル契約ノミナラス例ヘハ手形割引、貸附、代金先払ニヨル売買、商品ノ掛賣、債券ノ買入、合辦事業ニ依ル投資、借款ノ借換等苟クモ金融或ハ物

付今般政府ノ決定ハ如斯仮装のノモノト雖モ嚴ニ之ヲ取締ラントスル趣旨ナルヲ以テ其使途ニ付先ツ厳密ナル查覈ヲ加フルノ要有之候就テハ今後借款又ハ類似ノ交渉開始ニ際シ本邦資本家ヨリ貴官ニ申報有之候場合ニハ以上ノ趣旨ヲ以テ借款ノ金額其他ノ条件カ果シテ其目的ニ相応スルモノニシテ政費ニ流用セラル虞ナキヤ否ヤ等ニ付慎重ナル考慮ヲ加ヘラル、コト、致度候將又仮令其使途ハ妥当ナリトスルモ借款金ヲ漫然先方ノ手ニ委附スルトキハ当初ノ目的ニ使用セラレスシテ却テ他ニ流用セラレ延テハ政費ニ充テラルニ至ルコト無之ヲ保シ難キニ付借款契約ニ其使途監督ノ方法ヲ規定セシムルコト肝要ニシテ例ヘハ該借款金ヲ一応日本側ニテ預リ置キ借款金引出ノ都度其詳細ナル使途ヲ申出テサシムルカ如キ或ハ物品購入費支払ノ場合ニ直接供給者ニ之ヲ支払フカ如キ方法ヲ採ルニ於テハ蓋シ使途監督ノ実ヲ挙クルコトヲ得ルニ庶幾カランカト思考セラレ候尚借款成立後該資金カ其目的ニ使用セラレ所期ノ実績ヲ挙ケタルヤ否ヤニ関シテモ常ニ御注意相成度万一手ニ流用セラルルカ如キ形跡アル場合ニハ遲滞ナク關係者ニ警告ヲ与ヘラレ其ノ旨當方ヘモ御報告相成様致度候就テハ貴官ニ

於テハ以上ノ趣旨ヲ体シ今後借款ニ関シ關係者ニ適當ナル注意ヲ与ヘラレ政府ノ方針ノ徹底スル様努メラレ度ク尤モ

關係者ヨリ申報アリタル際御報告相成ル可キハ客月十九日閣議決定ノ通ニ付右御承知相成度候

前記閣議決定ニ所謂「借款又ハ類似ノ交渉云々」トハ純然タル借款ノ形式ヲ具備スル契約ノミナラス例へハ手形割引、貸附、代金先払ニヨル売買、商品ノ掛壳、債券ノ買入、合辦事業ニ依ル投資、借款ノ借換等苟クモ金融或ハ物資ニツキ便益ヲ供与スルカ如キ一切ノ方法ヲ指称スル趣旨ニ有之候尤モ金融業者或ハ商人等ノ普通業務ニ属シ金額ノ少ナルモノハ一々之ヲ取締ルコト到底不可能ナルニ付右ハ常識ノ判断ニ俟ツノ外無之候將又前記閣議決定ハ本邦資本家ト西比利亜ニ於ケル本邦人若クハ本邦法人トノ間ニ於ケル取引ニハ適用セラレサル次第ニ付右御含相成度此段為念申進候也

九二九 十二月三十日

内田外務大臣ヨリ  
在中国公使及各領事宛

## 二十万円以内ノ少額借款ニシテ政費流用ノ虞

無キモノハ在外公館長ノ裁量ニテ承認差支無

九三〇 十二月三十日

内田外務大臣ヨリ  
高橋大蔵大臣宛

## 滿蒙四鐵道及山東二鐵道借款問題善後方針ノ

件

附属書一 内田外務大臣ヨリ政機密第一〇六号写

二 内田外務大臣ヨリ東亜興業宛政機密送第一〇

七号写

三 内田外務大臣ヨリ朝鮮興業及台灣三銀行宛政機密送第四四九号写

政機密送第一三四号

当省係官ヨリ御同意ヲ得置タル滿蒙四鐵道及山東二鐵道善

後方針ニ基キ南滿洲鐵道会社ニ対シテハ別紙乙号写ノ通り

東亜興業会社ニ対シテハ別紙乙号写ノ通り興業銀行朝鮮銀

行竝台灣銀行ニ対シテハ別紙丙号写ノ通り夫々示達致置候

右及御通報候也

(附属書一)

別紙甲号写

十二月三十日内田外務大臣ヨリ滿鉄東京支社竜井理事宛公

信 政機密送第一〇六号

滿蒙四鐵道借款問題善後方針ノ件

大正七年九月二十八日朝鮮、興業、台灣三銀行ト支那政府

トノ間ニ予備契約ノ成立ヲ見タル滿蒙四鐵道借款問題ニ付

テハ別紙ノ方針ニヨリ善後処置ヲ圖ルコトニ決定致候ニ付

キ旨訓令ノ件  
政機密合送第一七九号  
対支借款ニ関スル件

本件ニ關シテハ本月二十一日付政機密合送第一七四号往信

ヲ以テ申進置候處今般資本家筋ヨリ政費ニ流用ノ虞ナク且金額モ僅少ナル借款其他類似ノ交渉ニ關シ出先ノ者ヨリ出

先官憲ニ申報シタル場合ニ一々之ヲ本省ニ電報シ請訓スルコトトセハ為ニ時機ヲ失シテ折角ノ交渉モ破談トナル虞モ不尠ニ付疑惑ヲ挾ムノ余地ナキ交渉ニ對シテハ出先官憲ニ

於テ本省ノ訓令ヲ待タス直チニ承認ヲ与ヘラルコトト致度旨願出来リ右ハ事情尤モト察セラレ候ニ付今後貴官ニ於

テ本邦資本家ヨリ申報ニ接セラレタル場合ニ其金額モ貳拾萬円以内位ノ少額ニテ且政費ニ流用ノ虞無之ト認定セラレ

タルモノニ限リ予メ請訓ヲ経ス貴官ノ裁量ヲ以テ直チニ承認ヲ与ヘラレ差支無之候尤右ノ場合ニハ其旨遲滯ナク可成詳細ニ電報相成様致度此段申進候也

尤モ相違ノ点左ノ点ナリ

一、大正七年九月二十八日調印滿蒙四鐵道予備契約規定ノ借款本契約締結期限タル四ヶ月ハ大正八年一月二十七日ヲ以テ満了スル处在支那公使ヨリ支那外交部ニ通告スル日取ハ右期限満了前ヲ選定スルハ勿論ナルカ幸ヒ一月早々關係者ニ於テ吉会鐵道借款本契約案ヲ齎シ北京ニ赴ク予定ニ付右ヲ參照シ定ムルコト又關係者ハ右期日ニ本鐵道借款本契約案ヲ支那側ニ提出シ交渉ニ着手スルコト

一、借款本契約案ニ付テハ四鄭鐵道借款契約ヲ標準トスルコト

一、滿蒙四鐵道中ニハ曩ニ正金銀行ト支那政府トノ間ニ契約ニヨリ正金銀行ヨリ資金ヲ融通スルコトトナリ居レルニ付此ノ点ハ適當ノ措置ヲ講スルコト

二一 対中国借款善後策ニ關スル件 九三〇

## 一二 対中国借款善後策ニ関スル件 九三〇

註

右別紙冒頭ニ左ノ附箋ヲ附ジタリ

「本件諸鉄道問題交渉ハ三銀行代表者ノ外三銀行代理者タ  
ル資格ニテ満鉄社員ヲモ差加ヘ共ニ會議ニ列席シ三銀行代  
表者ヲ援助スルコト」

### (附属書二)

別紙乙号写

十二月三十日内田外務大臣ヨリ荒井東亞興業会社社長宛公信

### 政機密送第一〇七号

山東二鉄道借款問題善後方針ノ件

大正七年九月二十八日朝鮮、興業、台灣三銀行ト支那政府  
トノ間ニ予備契約ノ成立ヲ見タル山東二鉄道借款問題ニ付  
テハ別紙ノ方針ニヨリ善後処置ヲ圖ルコトニ決定致候ニ付  
右ニヨリ至急御措置相煩度此段申進候也

追テ右ハ大藏省トモ打合済ニ有之為念申添候也

### (別紙)

山東二鉄道借款問題善後方針

一、大正七年九月二十八日調印山東二鉄道予備契約規定ノ  
借款本契約締結期限タル四ヶ月ハ大正八年一月二十七日ヲ  
以テ満了スルニ付一面在支帝国公使ヨリ支那外交部若ハ交  
通部ニ対シ本鉄道借款本契約締結ノ為メ大正八年一月某日

(箇附)  
一、本鉄道借款本契約ハ三銀行ニ於テ締結スルモ三銀行ハ  
唯借款資金ノ閑スル限り閑与スルコトトシ其他技術運輸等  
鉄道ノ実務ニ関スルコトハ東亞興業会社側ニ於テ担任スル  
コト政府ニ於テ異議ナシ（從テ技師長運輸主任会計主任等  
ハ東亞興業側ヨリ推薦スルコトナルヘシ）又右ノ如ク三  
銀行ノ契約上有スル権利義務ノ一部ヲ東亞興業ニ於テ担任  
スルニ付テハ先般興業銀行側提出ノ本契約草案第二十二条  
ノ如キ規定ヲ設ケ右ニヨリ三銀行ヨリ東亞興業ニ譲渡若ハ  
委任スルノ形式トスルコト亦政府ニ於テ異存ナシ  
一、本鉄道予備契約成立ト同時ニ支那側ニ交付セル二千万  
円ノ前貸問題ニ付テハ外務省大藏省三銀行及東亞興業各関  
係者間ニ適當ノ方途ヲ協議決定スルコト右ハ大藏省ニ於テ  
モ同意ナリ

### (附属書三)

別紙丙号写

十二月三十日内田外務大臣ヨリ美濃部朝鮮銀行總裁土方日本

興業銀行總裁及桜井台灣銀行頭取宛公信（各通）

滿蒙四鉄道及山東西鉄道借款問題善後方針ノ件

### 政機密合送第四四九号

大正七年九月二十八日貴行側ト支那政府トノ間ニ予備契約  
ノ成立ヲ見タル滿蒙四鉄道及山東西鉄道借款問題ニ付テハ  
別紙ノ方針ニヨリ善後処置ヲ圖ルコトニ決定致候ニ付右ニ  
ヨリ至急御措置相煩度此段申進候也

追テ右ハ大藏省トモ打合済ニ有之為念申添候也

### (別紙)

滿蒙四鉄道及山東二鉄道借款問題善後方針

滿蒙四鉄道及山東西鉄道善後方針ハ曩ニ決定セル吉会鉄道  
善後方針ニ則ルコト

### 一、但シ本件諸鉄道ニ付吉会鉄道ト異ル点左ノ通り

金ノ使途ニ付テハ嚴重ニ監督ノ途ヲ設クルカ若ハ適當ノ方  
途ヲ講シ苟モ事ニ害ナカラシヌムコトヲ要スルコト  
(一、山東鉄道延長線ノ經營ニ付テハ山東鉄道ノ經營ト聯  
絡ヲ取り歩調ヲ一ニスルコト)

附箋ノ記載左ノ通り  
「中日実業ノ関係ハ東亞興業ニ於テ始末スルコト」

## 一二 対中国借款善後策ニ関スル件 九三〇

九六八

頃ヲ以テ我關係者ヨリ北京ニ於テ支那当局ニ交渉開始ノ手  
筈トナルヘキ旨通告スルコト尤モ右期日ハ右期限満了前ヲ  
選定スルハ勿論ナルカ幸ヒ一月早々關係者ニ於テ吉会鉄道  
借款本契約案ヲ齎シ北京ニ赴ク予定ニ付右ヲ参照シ定ムル

コト又關係者ハ右期日ニ本鉄道借款本契約案ヲ支那側ニ提  
出シ交渉ニ着手スルコト

一、本鉄道借款本契約ハ三銀行ニ於テ締結スルモ三銀行ハ  
唯借款資金ノ閑スル限り閑与スルコトトシ其他技術運輸等  
鉄道ノ実務ニ關スルコトハ東亞興業会社側ニ於テ担任スル  
コト政府ニ於テ異議ナシ（從テ技師長運輸主任会計主任等  
ハ東亞興業側ヨリ推薦スルコトナルヘシ）又右ノ如ク三  
銀行ノ契約上有スル権利義務ノ一部ヲ東亞興業ニ於テ担任  
スルニ付テハ先般興業銀行側提出ノ本契約草案第二十二条  
ノ如キ規定ヲ設ケ右ニヨリ三銀行ヨリ東亞興業ニ譲渡若ハ  
委任スルノ形式トスルコト亦政府ニ於テ異存ナシ

一、本鉄道予備契約成立ト同時ニ支那側ニ交付セル二千万  
円ノ前貸問題ニ付テハ外務省大藏省三銀行及東亞興業各関  
係者間ニ適當ノ方途ヲ協議決定スルコト右ハ大藏省ニ於テ  
モ同意ナリ

告スル日取ハ右期限満了前ヲ選定スルハ勿論ナルカ幸ヒ一

九六九

### 二二 対中国借款善後策ニ関スル件 九三〇

月早々關係者ニ於テ吉会鉄道借款本契約案ヲ齋シ北京ニ赴ク予定ニ付右ヲ參照シ定ムルコト又關係者ハ右期日ニ本件諸鉄道借款本契約案ヲ支那側ニ提出シ交渉ニ着手スルコト

一、山東二鉄道ノ技術運輸等ノ実務ニ関スルコトハ東亞興業ニ於テ担任スルコト（從テ技師長運輸主任等ハ

東亞ヨリ夫々推薦スルコトナレハシ）

一、借款本契約案ニ付テハ四鄭鐵道借款契約ヲ標準トスルコト

一、滿蒙四鐵道中ニハ曩ニ正金銀行ト支那政府トノ間ニ契

約ニヨリ正金銀行ヨリ資金ヲ融通スルコトトナリ居レルニ付此ノ点ハ適當ノ措置ヲ講スルコト

（一、山東鐵道延長線ノ經營ニ付テハ山東鐵道ノ經營ト聯絡ヲ取り歩調ヲ一ニスルコト）

註 右文書ハ外務省ニ於テ事前ニ大藏省ト打合ノ上十二月二十日ノ本件關係者協議会ニ提出セラレタルモノナリ尚右別紙冒頭ニハ前掲附屬書一ノ別紙ニ附セラレタル附箋ト同文ノ附箋附セラレタリ

### 事項一三 中 国 内 政 関 係 雜 件

九三一 二月五日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ

本野外務大臣宛

一月二十四日馮大總統ノ時局談

一、時局ト日支親善トノ関係

馮總統ノ日中親善、南北妥協等時局ニ関スル  
内話報告ノ件

附屬書

一月二十四日馮大總統ノ時局談

機密第五四号

（二月十二日接受）

大正七年二月五日

在支那

臨時代理公使 芳 沢 謙 吉（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

時局ニ関スル馮大統領内話報告ノ件

一月二十四日貴族院議員井上子爵（匡四郎）カ本官ノ紹介ニヨリ馮大總統ニ謁見ノ際西田通訳官ヲシテ同伴セシメタル處右謁見ノ會談中日支親善談ヨリ時局ニ及ヒタル趣ニテ馮大總統ノ内話ハ其意見ノ一端ヲ表示セシモノト被認候間参考ノ為メ時局情報トシテ同通訳官ヲシテ別紙提出セシメ候間御查閱相成度此段報告申進候也

（附屬書）